

2日

《5月企業倒産7件》

帝国データバンク福島支店が発表した5月の県内企業倒産状況によると、負債金額1,000万円以上で法的整理による倒産件数は7件（前月比5件増）、負債総額は6億7,200万円（同4億1,200万円増）だった。

《合計特殊出生率1.27、最低更新》

厚生労働省が発表した2022年の人口動態統計（概数）によると、本県の合計特殊出生率は1.27（前年比0.09ポイント減）となり、2年連続で最低を更新した。出生数は9,709人（同940人減）で初めて1万人を下回った。

8日

《いわき駅前「ラトブ」改装オープン》

いわき市のJRいわき駅前の大型複合施設「ラトブ」1階商業エリアが、改装オープンした。同施設では昨年2月に入居していたスーパーが撤退し、後継テナントを探していたが難航したため、ビルの管理会社が青果店と日配品店を直営して再出発した。

13日

《5月新車登録台数、9カ月連続増加》

福島運輸局が発表した5月の県内新車登録・届け出台数（軽自動車と小型二輪車を含む）は5,338台（前年同月比20.1%増）で9カ月連続で増加した。軽自動車や貨物車などを除く乗用車は2,672台（同32.6%増）、軽自動車は2,126台（同15.0%増）だった。

14日

《佐川急便、県産農林水産物の販路拡大に向け連携協定締結》

佐川急便（京都市）は今年度から、県産農林水産物の販路拡大を支援するため、地域の魅力発信などを盛り込んだ包括連携協定を県と締結した。同社のネットワークを生かし、県内生産者と各地の小売・流通業者などを結び、県産品の魅力を広く伝え、東京電力福島第一原発事故に伴う風評の払拭などにつなげる。

20日

《いわき市漁協、水揚げ量962t》

いわき市漁協の2022年度の水揚げ量は962t（前年度比3%増）、水揚げ金額は7億1,061万円（同51%増）で、ともに東日本大震災以降で最多だった。水揚げ量は震災前の2010年度の約24%、取引額は約40%の水準まで回復した。

23日

《本県への移住者、過去最多2,832人》

県は、2022年度の県内への移住者数が1,964世帯2,832人で、2006年度の調査開始以降、過去最多だったと発表した。県は、コロナ禍における地方移住への関心の高まりに加え、県や市町村によるPR効果が出てきたとみている。

26日

《処理水トンネル工事完了》

東京電力は、福島第一原発の放射性物質トリチウムを含んだ処理水を海洋放出する設備の設置工事が完了したと明らかにした。28日から原子力規制委員会による放出前の検査が行われ、この検査に合格すると、放出に向けた設備面での準備が整う。

28日

《御宿万葉亭、四季彩一力が総合部門1位》

リクルート（東京都）が運営する旅行サイト「じゃらんnet」は、2022年度の「じゃらんアワード」を発表した。同サイトのクチコミ評価が上位の宿泊施設に贈られる「泊まって良かった宿大賞」の総合部門は、御宿万葉亭（猪苗代町）が50室以下、四季彩一力（郡山市）が51～100室で1位に輝いた。

29日

《浪江町にコンクリート開発施設完成》

国内外で事業展開する大手コンクリートメーカーの会沢高圧コンクリート（北海道）が浪江町請戸地区の南産業団地に整備を進めていた中核施設「福島RDMセンター」が完成した。研究開発施設と工場を備えており、最新技術を活用したコンクリートの製造などを進める。